



株式会社サイフューズ (証券コード：4892)

# 2022年12月期 決算説明会資料

2023年 2月17日

# Agenda

01 2022年12月期サマリー

02 会社概要

03 開発進捗

04 2022年12月期 決算概要 及び 今後の事業計画

# 2022年12月期サマリー

## 【外部環境】

- 再生医療・細胞治療分野

再生医療等製品の承認品目が年々増加しており、国内承認品目が17品目（2022年12月末時点）となるなど、分野成長に期待

- 新型コロナウイルスの影響

行動制限が緩和され徐々に元に戻りつつあるものの、物価高騰・円安、コスト増や部材調達の遅延等を含め、医療機関との連携により進める当社の研究開発に対して、少なからず影響あり

## 【当社業績概要（トピック）】

- 当社再生医療等製品の实用化に向けた**パイプライン開発が順調に進展**

- パートナー企業との連携強化により、当社再生医療等製品の**製造・販売に向けた体制を構築**

- **東京証券取引所グロース市場への上場**により資金調達

# Agenda

01 2022年12月期サマリー

**02 会社概要**

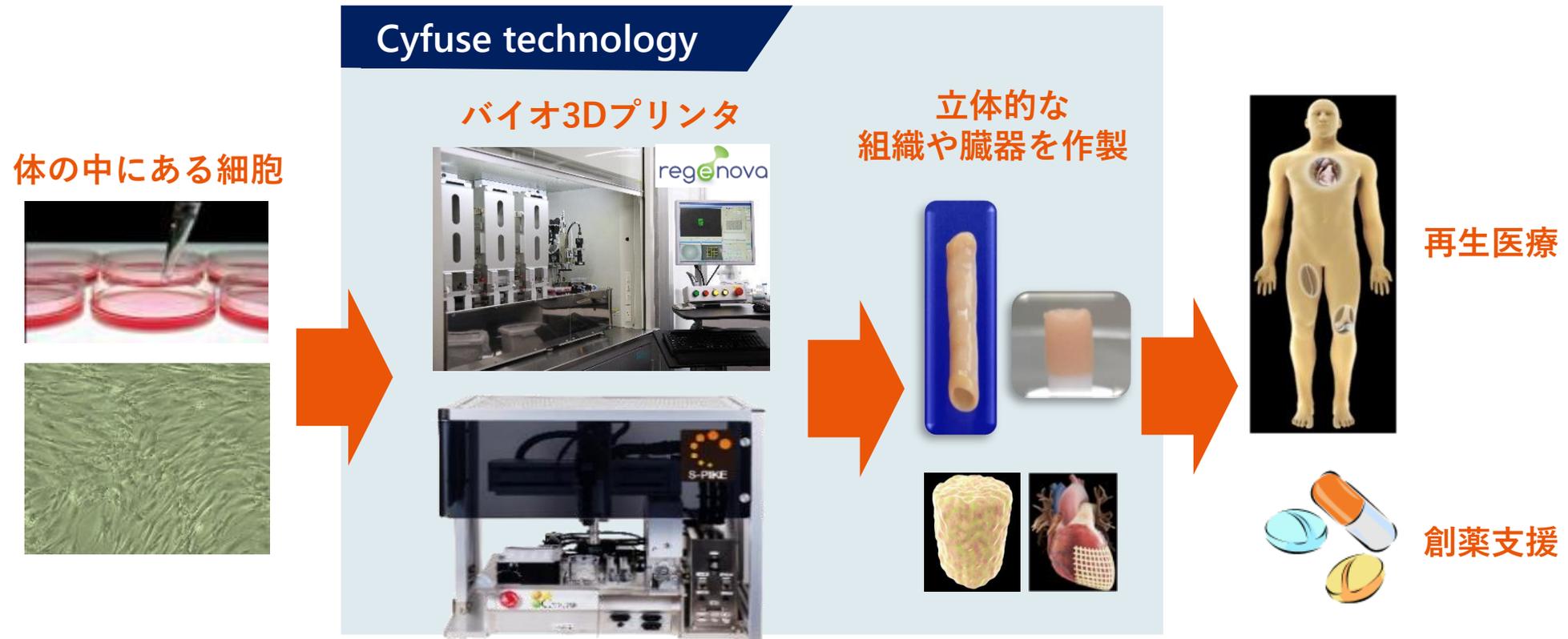
---

03 開発進捗

04 2022年12月期 決算概要 及び 今後の事業計画

# Our Vision

サイフューズは「革新的な三次元細胞積層技術で医療の飛躍的な進歩に貢献する」ことを企業理念とし、病気やケガで苦しむ患者さまに再生医療等製品という新たな治療法の選択肢をお届けすることで、新しい医療・社会の創出に貢献することを目指します。



サイフューズでは自社で開発したバイオ3Dプリンタを用いて立体的な組織・臓器を開発し、「再生医療等製品」として、患者さまへお届けすることを目指しております。

# 再生医療等製品とは

- 国内では17製品が「再生医療等製品」として承認取得（2022年12月時点）
- 再生医療とは、細胞や組織を用いて、病気やケガなどにより機能を失った組織や臓器を修復・再生させる医療であり、患者さまに対して新たな治療法の選択肢を提供し、国民の健康増進に大きく寄与することが期待される新しい医療です。
- 本領域において、ヒト又は動物の細胞に培養等の加工を施したもので、身体の構造・機能の再建・修復・形成するものや疾病の治療・予防を目的として使用するものを総称して「再生医療等製品」といいます。



サイフューズは、まだ市場にない立体的な組織/臓器を「再生医療等製品」として実用化することを目指しております。

# 会社概要



社名	株式会社サイフューズ(Cyfuse Biomedical K.K.)
設立	2010年8月11日
本社住所	東京都港区三田3-5-27 三田ツインビル西館
ラボ所在地	東京ラボ:東京都港区三田3-5-27 三田ツインビル西館 福岡ラボ:福岡市中央区天神1-10-20 天神ビジネスセンター
代表取締役	秋枝 静香
従業員	22名(2022年12月時点)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>● 再生医療事業:再生医療等製品・3D細胞製品の開発・販売</li><li>● 創薬支援事業:創薬支援用3D組織の開発・販売、製造受託</li><li>● デバイス事業:バイオ3Dプリンタ及び消耗品等の開発・販売</li></ul>

# 事業領域

バイオ3Dプリンティング技術をベースとする自社のプラットフォーム技術を用いて、  
再生医療・創薬支援・デバイス開発の3領域において研究開発を推進



## デバイス開発

バイオ3Dプリンタ及び  
培養周辺機器の開発・販売

研究用／臨床用

培養周辺機器



## 創薬支援

画期的な  
創薬スクリーニングツールの開発

毒性評価

薬効評価



## 再生医療

革新的な  
三次元の再生医療等製品の開発

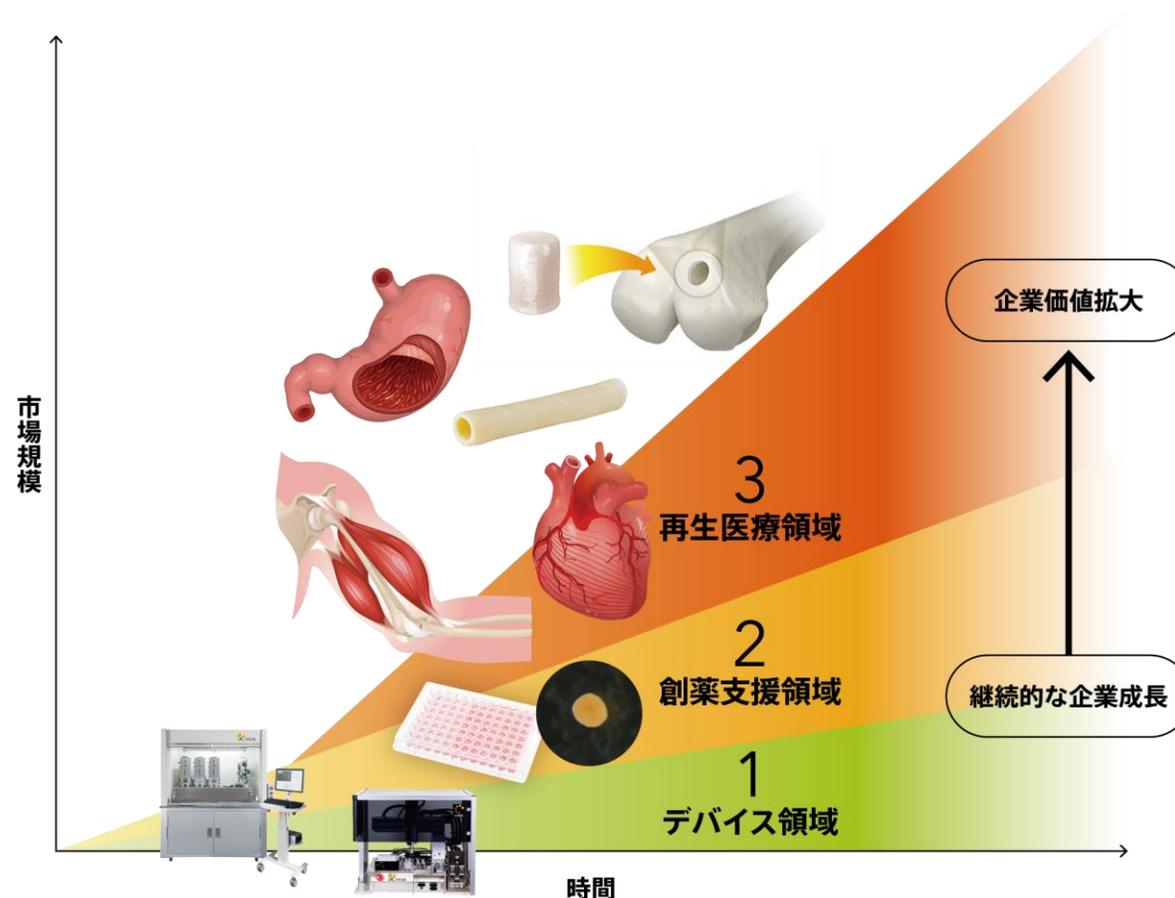
神経

骨軟骨

血管

# 事業戦略・事業成長イメージ

- 当社では、従来技術・従来製品との比較優位性を背景に、革新的な「3D細胞製品」の実用化を主軸として戦略的・多面的に事業展開を推進
- 具体的には、デバイスの普及により「ベース収益の確保」と「シーズ探索拡大」を図り、研究用組織(創薬研究用)等の細胞製品の販売・各種受託等により「早期のマネタイズ」の実現を目指す
- 中長期的には「再生医療等製品の承認取得」を目指し、再生医療ベンチャーとしての事業価値最大化を図る方針



# サイフューズの独自技術

## 一般的な組織の作製方法



## CYFUSE サイフューズの技術

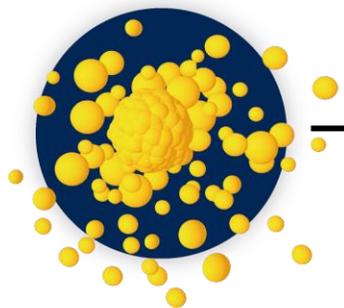


人工材料を使用せず、細胞のみで立体的な組織／臓器を作製する技術を用いて、  
移植用3D組織・臓器を開発しております。

# サイフューズのプラットフォーム技術：剣山メソッド

STEP 1

細胞準備



細胞を増やす

- 間葉系幹細胞
- iPS細胞
- ES細胞
- その他自家・同種細胞 etc.



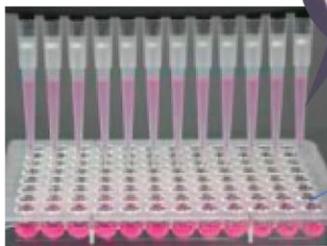
STEP 2

スフェロイド(細胞塊)作製



細胞塊の作製

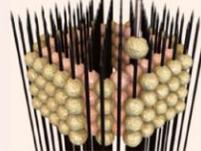
細胞凝集現象により、  
数万個の細胞が1つの塊に



STEP 3

独自基盤技術

剣山上にスフェロイドを積層

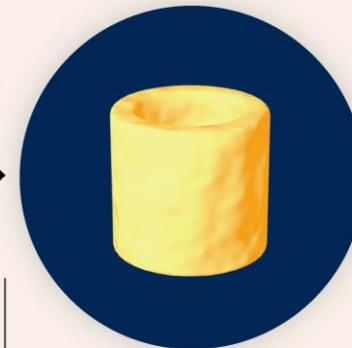


細胞のみで立体化

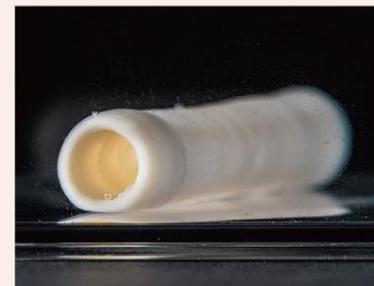
剣山上にスフェロイドを積層\*することで3次元組織の構築が可能に



3Dプリンティング



細胞100%組織・臓器

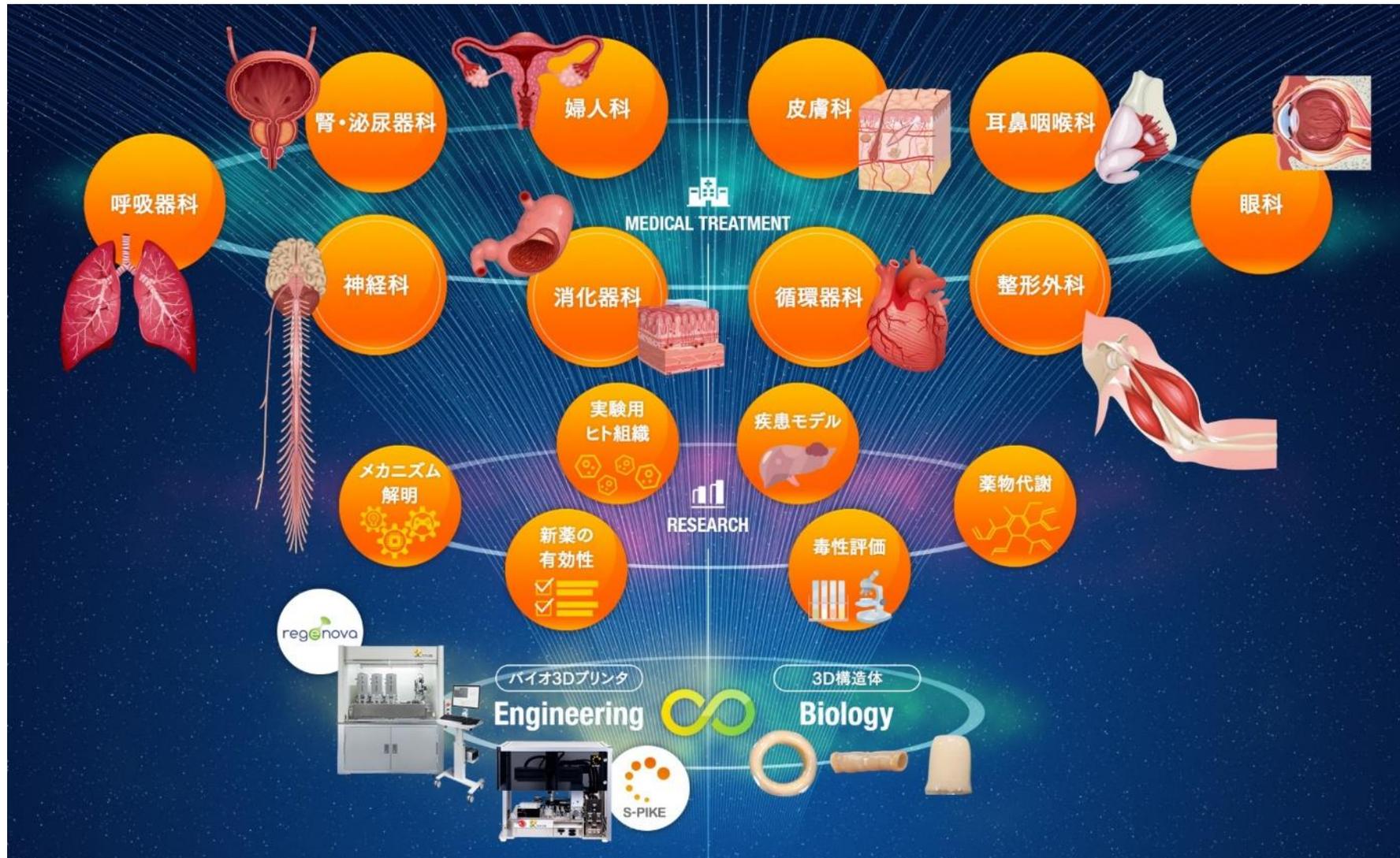


3次元組織完成

← 当社の強み: 自社において、プラットフォーム技術を保有 →

\*特許取得済み

# バイオ3Dプリンティング技術を用いて様々な領域の研究開発を実施



# Agenda

01 2022年12月期サマリー

02 会社概要

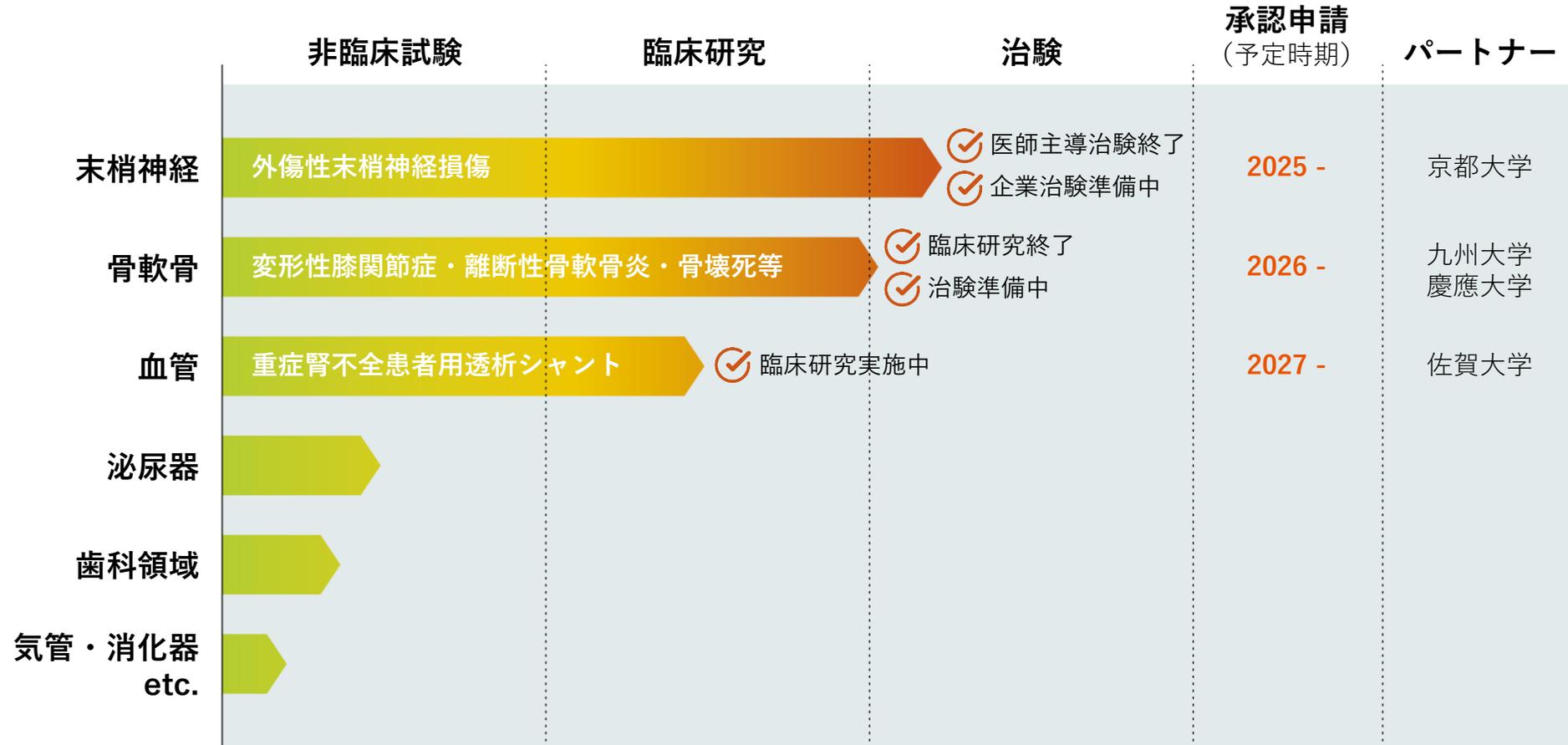
**03 開発進捗**

---

04 2022年12月期 決算概要 及び 今後の事業計画

# 再生医療領域

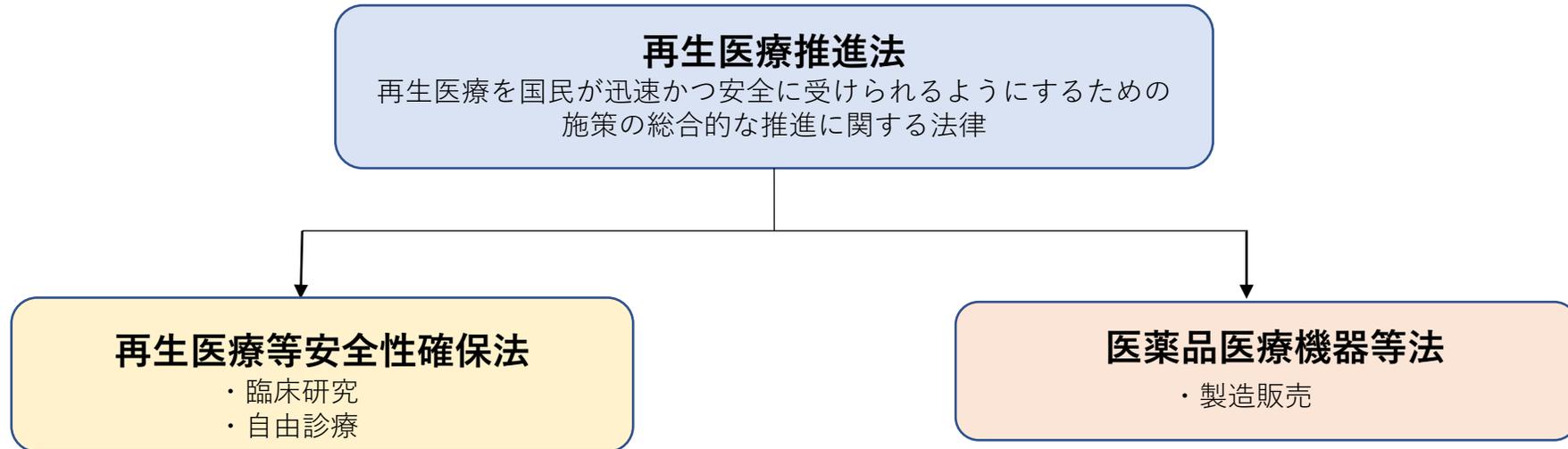
## 当社パイプラインの開発状況



- 当社が開発している製品はいずれも、再生医療等製品としての承認取得を目指して開発
- 主要パイプラインは、いずれもAMED等の助成金を活用し、開発

# 【参考】再生医療法関連

- 再生医療の実用化を総合的に推進することを目的とし「再生医療を国民が迅速かつ安全に受けられるようにするための施策の総合的な推進に関する法律（再生医療推進法）」が公布（2013年5月公布）
- この議員立法を踏まえて再生医療に関する具体的な施策が検討された結果、2つの再生医療法案「再生医療等の安全性の確保等に関する法律（再生医療等安全性確保法）」と「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（医薬品医療機器等法）」が成立し、2014年11月25日より施行



## \* 参考：一般的な開発プロセス



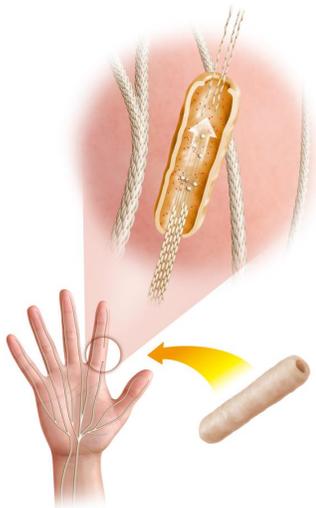
# 当社主要パイプライン

細胞のみから成る立体的な組織を開発し、病気やケガで失われた組織や臓器の機能を再生させることを目指しております

## 神経再生

末梢神経損傷等から四肢の機能の回復を必要とされる患者さま

「細胞製神経導管」を移植することで、断裂した神経を再生し、感覚神経や運動神経を再生



## 血管再生

腎不全等により血液透析を必要とされる患者さま

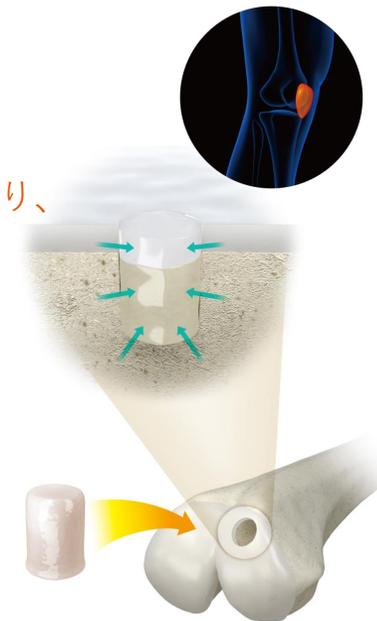
人工血管の代わりに「小口径細胞製血管」を移植することで感染症のリスクや負担を軽減



## 骨軟骨再生

変形性膝関節症等により、損傷が骨まで進行し、骨軟骨の再生を必要とされる患者さま

骨軟骨損傷部へ「細胞製骨軟骨」を移植することで骨と軟骨の両組織を同時に再生



### 論文等の掲載実績

Scientific Reports, 2020 Jul.  
Microsurgery, 2020 Feb.  
Cell Transplantation, 2019 Jun.

Nature Communications, 2019 Aug.  
PLOS One, 2015 Sep.

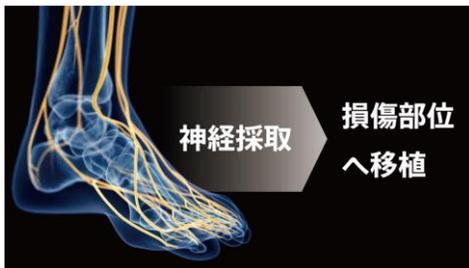
Journal of Orthopaedic Surgery, 2014

まずは上記3つのパイプラインについて「再生医療等製品」の承認取得を目指しております。

# 末梢神経再生について

## 既存の治療法

### 自家神経移植



健全な神経を採取し、損傷部位に移植  
神経採取部位にしびれと痛みが残る

### 人工神経移植



人工神経を移植  
十分な神経再生は得られていない  
神経再生には、成長因子・血管・足場等の  
様々な要素が必要であるが、細胞成分が重  
要であるとの報告がなされている。

## マーケット

### 患者数<sup>\*1-3</sup>

外傷性末梢神経損傷患者数

US 約**140**万人

国内 約**6.8**万人～**17**万人

人工神経移植患者数

US 約**10**万人

国内 約**1.5**万人

### (参考)人工神経売上実績<sup>\*4</sup>

US 約**100**億円  
(axogen社 2020年売上実績)

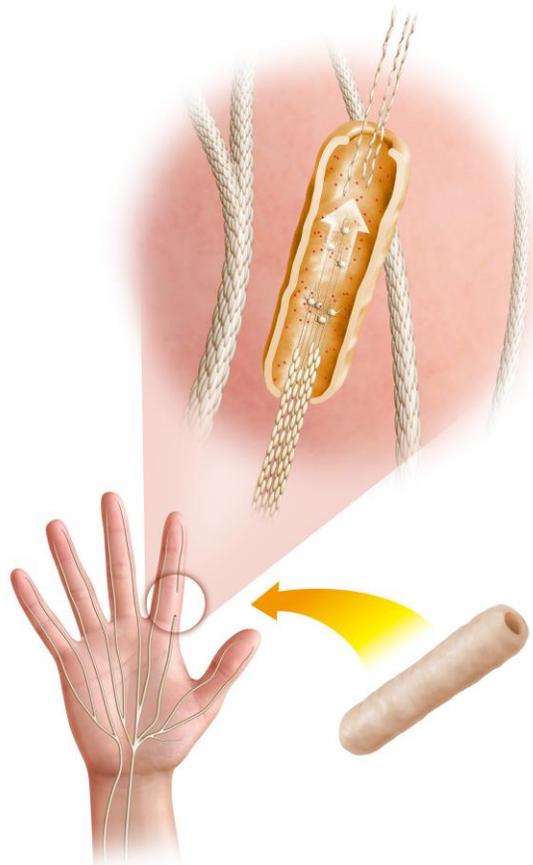
国内 約**30～50**億円  
(当社調査により推定)

末梢神経損傷に対する、新しい治療法・製品を開発することにより、新しい市場の獲得を狙う

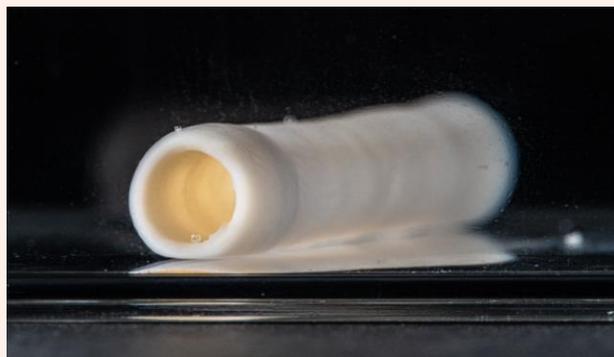
\*1 厚生労働省「令和2年医療施設(静態・動態)調査(確定数)・病院報告の概況」 \*2 厚生労働省「初診外傷患者における調査結果」 \*3 2009年日本リハビリテーション医学会「Traumatic Injury to Peripheral Nerves」 \*4 axogen HP (<https://ir.axogeninc.com/>) ※市場規模の試算については、既存療法との効果比較による薬価の想定に基づき当社推定

# 末梢神経再生概要

外傷性末梢神経損傷に対する  
細胞製神経導管を開発

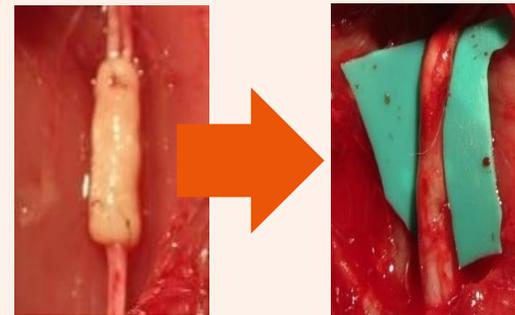


## 細胞製神経導管

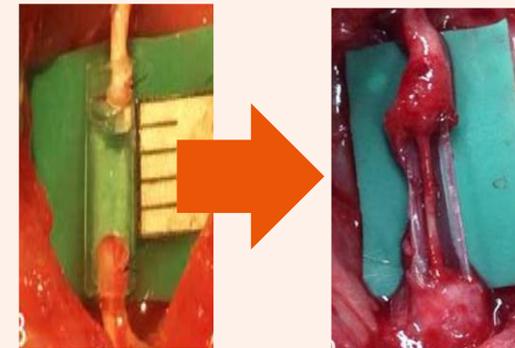


細胞のみから成る三次元導管。  
人工材料を含まず、細胞成分（成長因子  
等）が多く含まれているため、良好な神経  
再生が見られる。

細胞製神経導管  
を移植した場合



人工物を  
移植した場合



\*ラットでの移植試験結果:Yurie et al PLOS One Feb. 2017

## 現在の開発ステイタス



- 京都大学医学部附属病院において医師主導治験を実施：医師主導治験終了

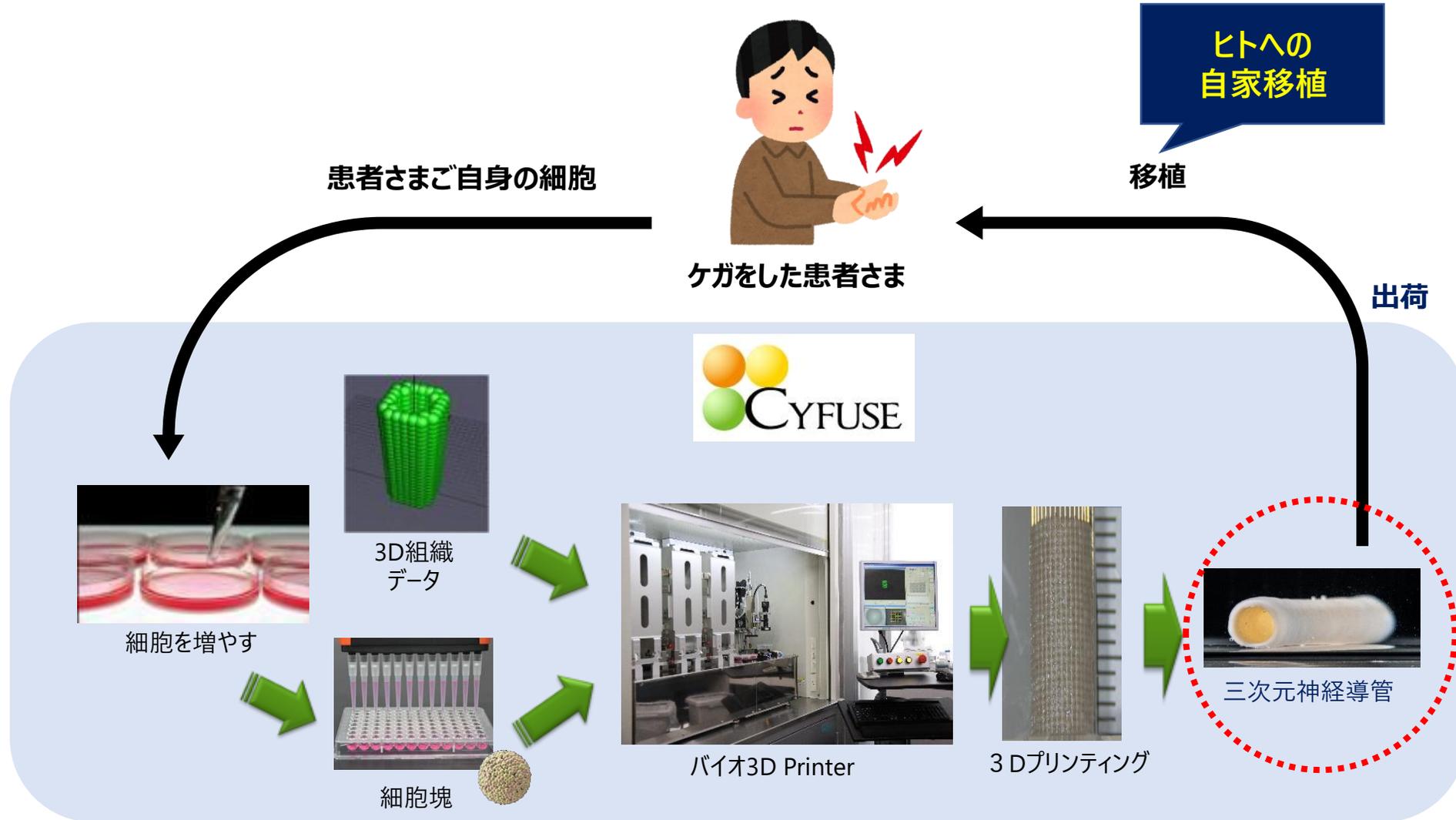
AMED委託事業「末梢神経損傷を対象とした三次元神経導管移植による安全性と有効性を検討する医師主導治験」の支援を受け治験実施

- 現在のところ、安全性に関する懸念は出ておらず、有効性について確認中：現在、データ解析中

- 医師主導治験の結果を踏まえ、2023年より企業治験を実施予定。2025年の承認申請を目指す計画

# 末梢神経再生の医師主導治験を実施

- 京都大学医学部附属病院にて実施-



AMED委託事業「末梢神経損傷を対象とした三次元神経導管移植による安全性と有効性を検討する医師主導治験」の支援を受け治験実施

# 末梢神経再生の開発に関する発表

2022年1月

「末梢神経損傷を対象とした三次元神経導管移植による  
安全性と有効性を検討する医師主導治験」  
の進捗について（経過報告）

1. 概要

京都大学医学部附属病院では、2020年9月より、「末梢神経損傷を対象とした三次元神経導管移植による安全性と有効性を検討する医師主導治験」を開始しております。本治験の現在の進捗状況についてご報告いたします。

2. 登録状況

予定数の登録を完了いたしました。ご紹介、ご協力いただきありがとうございます。

3. 治験製品移植の実施状況

2021年末に予定定例数の治験製品の製造を終え、治験製品の移植を完了しました。現在のところ安全性に関する懸念は出ておらず、移植後の経過を慎重に観察しながら進めております。

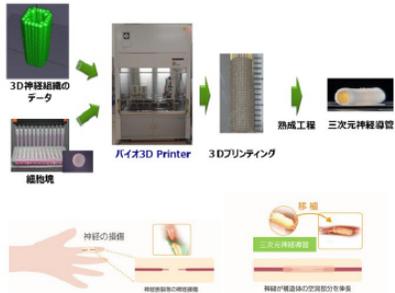
4. 今後の予定

治験製品移植後1年間の経過観察を行って、安全性と有効性を評価します。観察期間が終了し、データ解析後、確定次第報告させていただきます。データの正確性と信頼性を保つために、経過中の詳細情報は差し控えてさせていただきます。何卒ご了承ください。

一日でも早く多くの方に本治療をお届けできるよう慎重に治験を実施して参りますので、今後とも温かいご支援をよろしくお願いいたします。

5. 本治験の概要

本治験では、立体組織製造装置（バイオ3Dプリンタ）を用いて製造された、患者さん自身の皮膚から採取した細胞のみから構成される三次元神経導管を、患者さんの神経損傷部位に移植します。



京都大学HPより

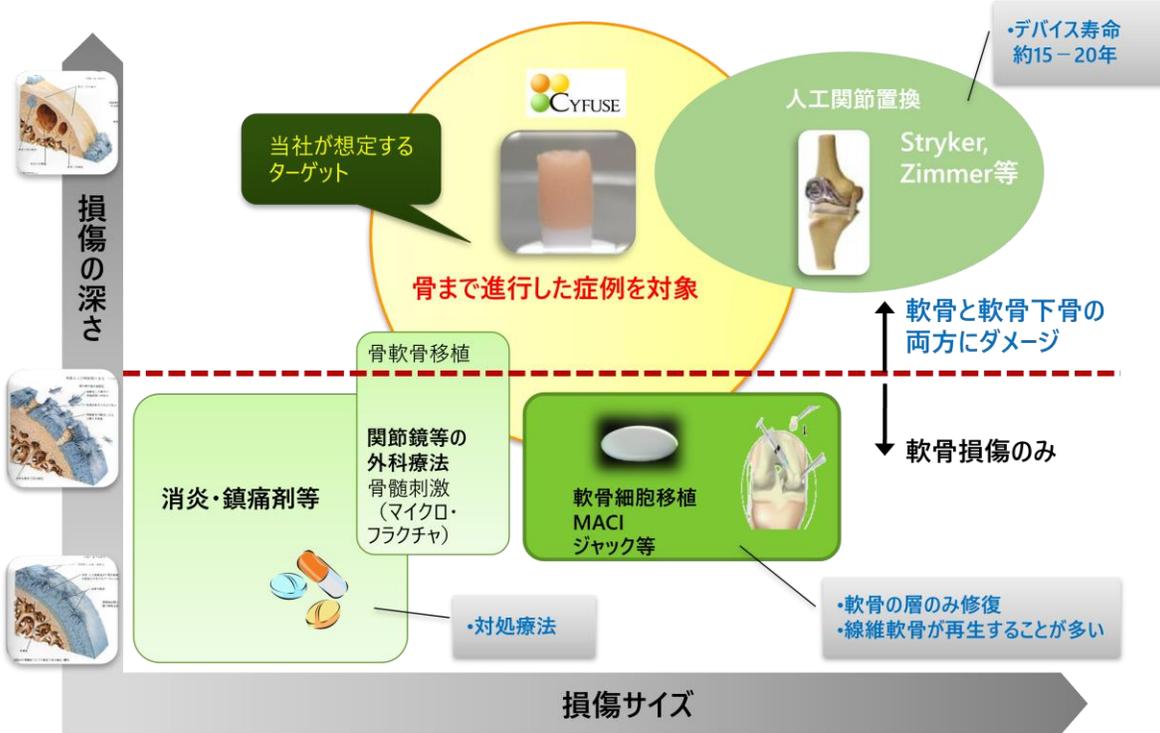
- 第21回日本再生医療学会総会（2022.3）
- 文部科学省 情報ひろば 展示会（2022.5.27~7.11）
- 第33回日本末梢神経学会学術集会（2022.9）

## 「文部科学省 情報ひろば」展示会



# 骨・軟骨再生について

## 既存の対処療法・治療法



未だ市場にない、  
骨と軟骨を同時に再生させる製品の開発を目指す

## マーケット

軟骨のみを再生させる既存の製品はあるが、  
骨と軟骨を同時に再生できる製品は市場にない

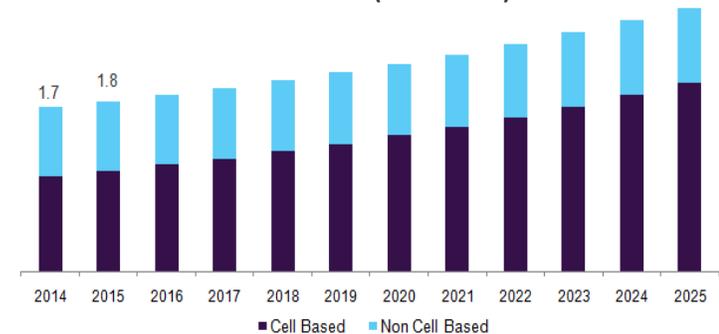
### 患者数\*1

国内 潜在患者数：約**3,000**万人

顕在患者数：約**1,000**万人

### (参考)軟骨再生マーケット\*2

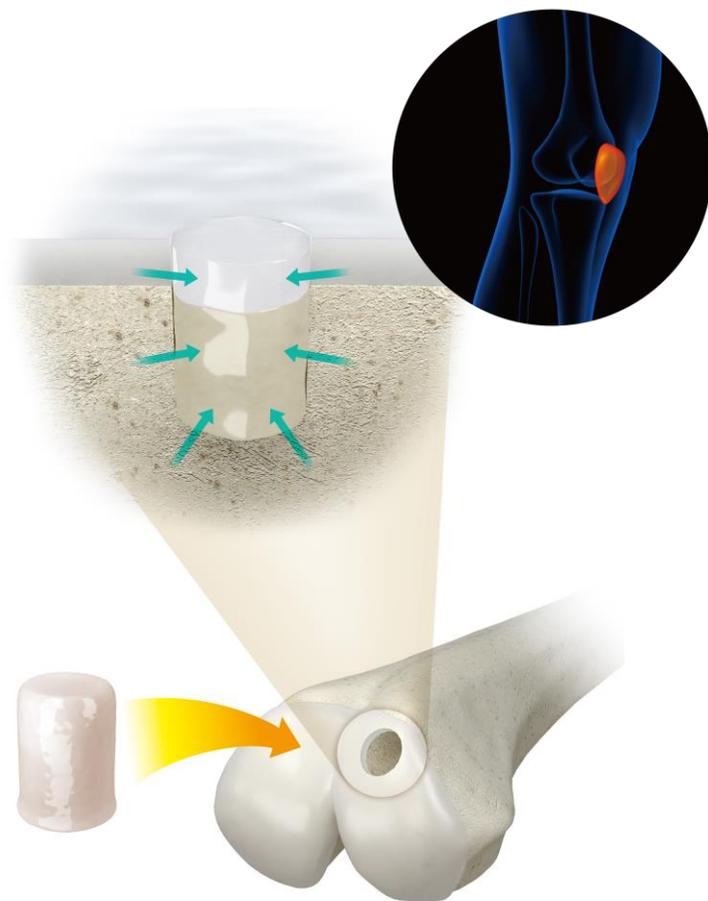
U.S. cartilage repair/regeneration market, by treatment modality, 2014 - 2025 (USD Billion)



\*1 <https://www.jinko-kansetsu.com/pain/knee/oa.html> \*2 <https://www.grandviewresearch.com/industry-analysis/cartilage-repair-regeneration-market>

# 骨・軟骨再生概要

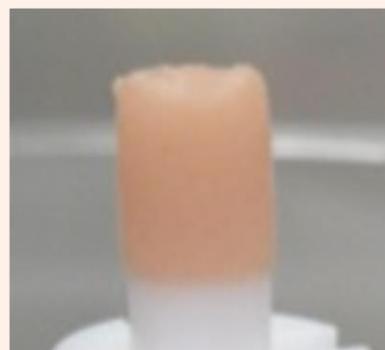
変形性膝関節症や離断性骨軟骨炎、骨壊死等を対象とする骨軟骨製品を開発



## 骨と軟骨を同時に再生させる新しい再生医療等製品を開発

- 細胞のみから成る3D構造体を骨軟骨欠損部に移植すると、骨と軟骨が同時に再生することを確認

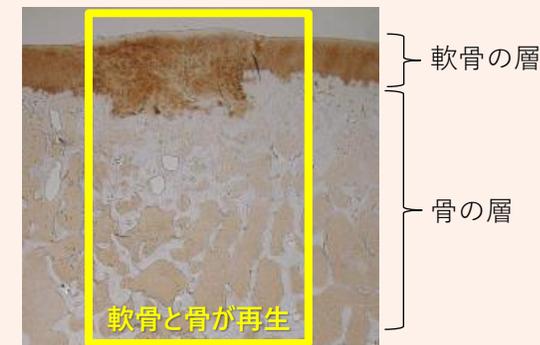
### 三次元骨軟骨構造体



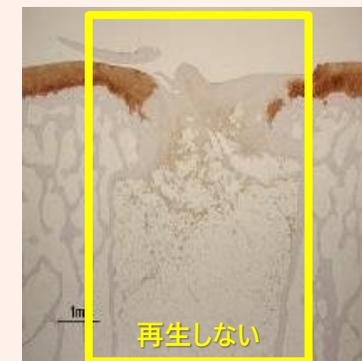
#### 細胞のみから成る三次元構造体

人工材料を含まず、細胞のみで構造体を作製。移植後、3D構造体が軟骨と骨に分化。

3D構造体を移植した場合



何も移植しなかった場合欠損のまま



\*ミニマタでの移植写真

## 臨床研究において、安全性と有効性を確認

- AMED橋渡し研究プログラム「バイオ3Dプリンタ技術を用いた膝関節特発性骨壊死に対する骨軟骨再生治療」の支援を受け、慶應義塾大学と共に研究開発を実施

# 血管再生について

## 既存の治療法

### 自己血管移植



自己の血管を採取し、移植

### 人工血管移植



写真：TERUMO社HP

e-PTFE製やポリウレタン製の人工血管が  
用いられる

## マーケット

透析患者さまの腕に移植する細胞製人工血管を開発

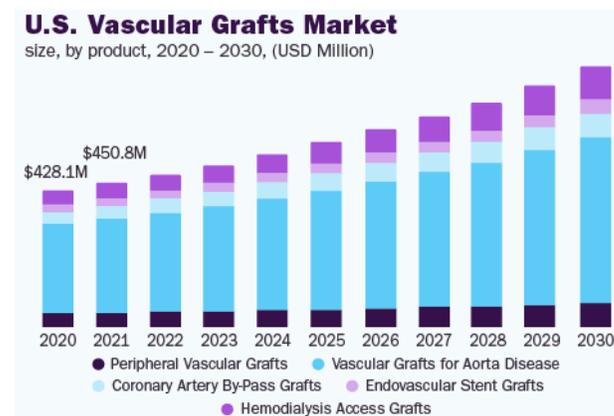
### 患者数\*1

国内 糖尿病患者：約**330**万人

慢性透析患者：約**33**万人

人工血管(シャント)適用者(新規)：約**1.5**万人/年

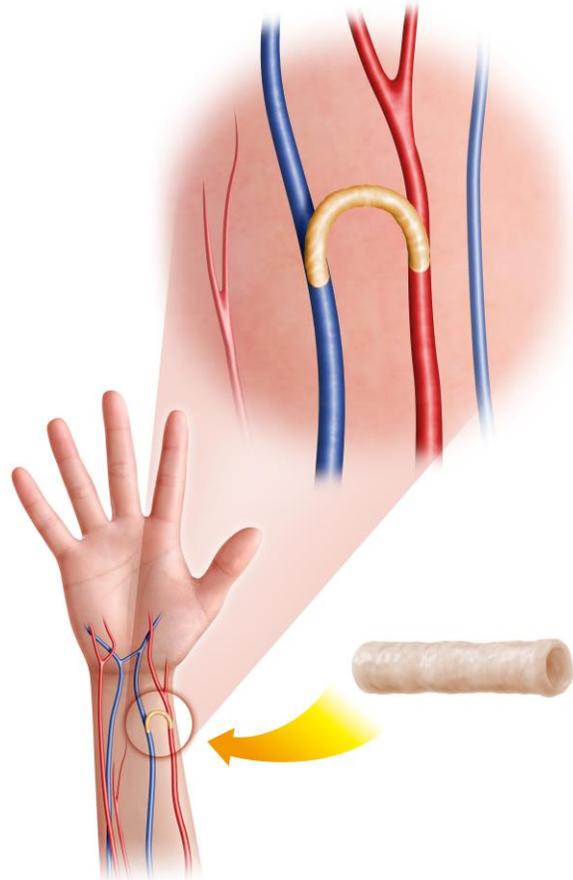
### (参考)血管マーケット\*2



\*1 日本透析医学会HP等参照 <https://docs.jsdt.or.jp/overview/> \*2 <https://www.grandviewresearch.com/industry-analysis/vascular-graft-market>

# 血管再生概要

重症腎不全・透析患者さまを対象とする  
シャント用細胞製人工血管を開発



## 患者様ご自身の細胞で血管を再生

- 細胞のみから成る小口径人工血管を開発し、血管再生を目指す
- 患者さまご自身の細胞でチューブ状の構造体(細胞製人工血管)を作製し、腕の血管に移植

## 細胞製人工血管



**細胞のみから成るチューブ状の構造体**  
人工材料を含まず、細胞のみで構造体を作製。移植後に、自己の血管組織に置き換わることが示唆された。



\*ミニプタへの移植試験写真：Nature Communications, 2019 Aug

## 臨床研究実施中

- AMED委託事業「バイオ3Dプリンタを用いて造形した小口径Scaffold free細胞人工血管の臨床研究」の支援を受け、佐賀大学と共に研究開発を実施

# サイフューズの技術の優位性を活かした研究開発

対象臓器	当社での位置づけ	解決すべきアンメットニーズの例	対象疾患	国内患者数* (万人)
末梢神経	早期承認を目指した 神経再生製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 切断神経の再生</li> <li>● 人工神経を凌駕する細胞製神経導管</li> </ul>	外傷性 末梢神経損傷	1.5
骨/軟骨	基盤技術の先行 アプリケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 手術ニーズの高い骨・軟骨同時再生</li> </ul>	変形性関節症	62.5
血管	3D技術を活かした 分かりやすい製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小口径、止血性、抗感染性</li> </ul>	透析シャント	1.5
肝臓	創薬	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ハイコンテンツかつ長期の薬剤評価</li> <li>● 疾患メカニズムの解明</li> </ul>	-	-
	臨床	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 弱った肝機能補完</li> <li>● 肝移植までのブリッジ</li> </ul>	移植適応 肝硬変	4.2
神経(中枢)	立体組織の強みが 生きる難治性疾患への挑戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 脊髄損傷の欠損部位を神経幹細胞で満たしリハビリとの組み合わせで機能再建</li> </ul>	脊椎損傷	10.0
泌尿器・ 子宮再生	より大きな組織再生への挑戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 膀胱/排尿機能再生</li> <li>● 代用膀胱の置き換え(自己腸管、蓄尿バッグ等)</li> </ul>	重症間質性 膀胱損傷	30.0
			子宮再生	-
心筋	立体組織の強みが 生きる難治性疾患への挑戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 線維化して機能不全になった組織を置換し再生</li> </ul>	重症性心不全	79.2
小腸、大腸等 消化管	内視鏡で移植可能な 消化器への応用拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 細胞懸濁液及び細胞シートを凌駕する生着率、組織代替法</li> </ul>	潰瘍性大腸炎	13.3
			クローン病	3.4

\* 厚生労働省の患者数調査結果他をもとに、適用患者数について当社調査をもとに推定

# 独自のプラットフォーム技術を有する当社の強み

1

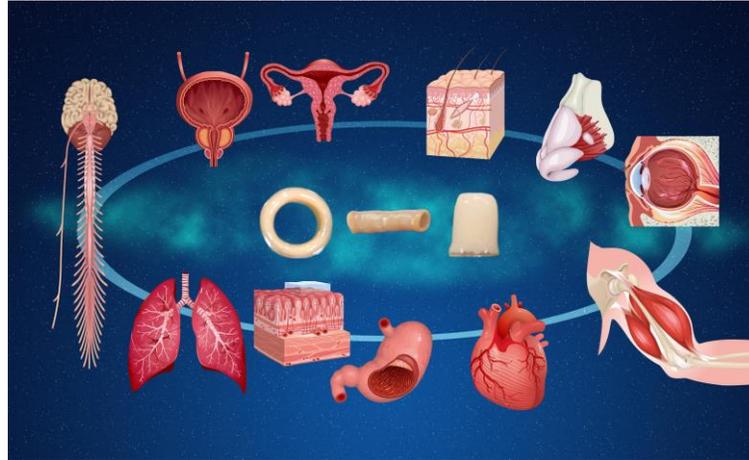
細胞種に制限されない製品開発



- 自家細胞でも他家細胞でも細胞種を問わず、3D組織・臓器を作製可能
- 広範囲の対象疾患に展開可能

2

サイズ・デザインの制限なし



- 細胞塊(スフェロイド)の自由な組み合わせにより、複雑な臓器も作製可能
- 構造体同士を融合・連結させることにより、大型の臓器を作製可能

3

対象疾患の適用拡大(イメージ)



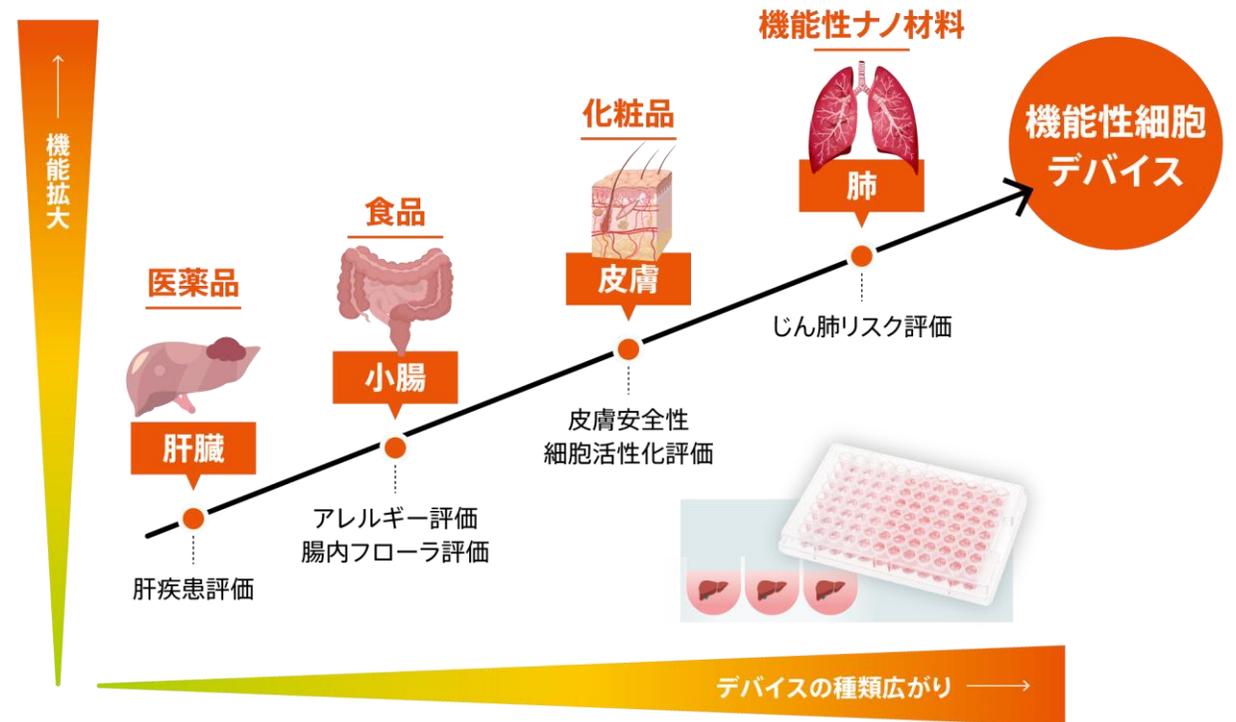
- 十分な安全性を確認した上で製品開発を進め、対象疾患の適用拡大を目指す

当社では「スフェロイドとバイオ3Dプリンタを用いて、三次元組織を構築する」  
独自のプラットフォーム技術を有していることから、様々な領域の組織・臓器開発を行うことが可能

# 創薬支援領域



## 次世代ヘルスケア分野



- 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の支援事業「研究開発型ベンチャー支援事業／企業間連携スタートアップに対する事業化支援」を受け開発した「3D肝臓構造体による毒性評価モデル」の事業化に向け、協業パートナーとともに開発を加速
- 協業パートナーである大阪サニタリー株式会社とともに第4回 再生医療EXPO（2022年7月開催）において出展



# デバイス領域

- 基盤技術を搭載した三次元細胞積層システム機器(バイオ3Dプリンタ及び消耗品)等の開発・販売及び細胞製品開発のための技術応用や新技術開発等を行う
- バイオロジーとエンジニアリングの技術を融合させ、培養関連装置及び消耗品類を自社開発
- 手作業での製造から自動化を図ることで、将来の生産効率化ならびに量産体制の構築を図る

regenova



第1世代  
「regenova®」製品化



S-PIKE

第2世代  
「S-PIKE®」製品化



第3世代  
臨床機「Cytrix®」



次世代機開発中  
商業生産向けバイオ3Dプリンタ

2022年12月23日プレスリリース  
「日本精工株式会社と再生・細胞医療分野における新技術開発で協創」  
<https://www.cyfusebio.com/archives/942>

# 企業との協業パートナーシップ

## 臓器を患者さまへお届けするまでの「バリューチェーン/サプライチェーンを構築」

- 再生医療等製品の実用化(製品化)においては、様々な企業との連携が重要
- 当社では、提携先パートナー企業と共に再生医療等製品の製造～輸送にかかる必要な体制を構築
- 再生医療の産業化を見据えた仕組みづくりに積極的に取り組んでいる



●●● 提携先パートナー企業例

※50音順に表記

Iwatani

TAIYO  
太陽ホールディングス

◎日立グローバルライフソリューションズ株式会社

FJ  
福岡地所

ZACROS

株式会社 メディカルホールディングス

# パイプライン開発に関する主な業務提携概況



- 藤森工業株式会社と業務資本提携契約を締結
- 当社再生医療等製品の製造工程(細胞の大量培養)における、共同開発を実施



- 太陽ホールディングス株式会社と業務資本提携契約を締結
- 当社再生医療等製品の製造に関する包括的パートナーシップを締結
- 太陽ファルマテック株式会社の工場内に当社製品の製造施設を構築



- 日立グローバルライフソリューションズ株式会社と業務提携契約を締結
- 当社再生医療等製品の製造施設及び製造設備における、共同開発を実施



- 岩谷産業株式会社と業務資本提携契約を締結
- 当社再生医療等製品の製造工程(細胞の保管システム)における、共同開発を実施



- 株式会社メディパルホールディングスと開発投資契約を締結
- 当社再生医療等製品の流通体制について、共同開発を実施

パートナー企業と共同開発体制を構築することより、自社の開発コストを抑えつつ開発を加速

# Agenda

01 2022年12月期サマリー

02 会社概要

03 開発進捗

**04 2022年12月期 決算概要 及び今後の事業計画**

---

# 2022年12月期決算概要：業績ハイライト

## 損益計算書

(単位：千円)

勘定科目	2020年 12月期	2021年 12月期	2022年 12月期	業績予想 (2022年12月開示)
売上高	137,484	708,245	374,477	364,422
売上総利益	67,021	570,603	241,495	232,751
販管費合計	439,157	500,033	666,585	736,637
営業利益	△372,135	70,569	△425,089	△503,888
経常利益	△327,492	144,914	△433,165	△479,518
当期純利益	△329,501	142,905	△473,962	△521,333

## 貸借対照表

(単位：千円)

勘定科目	2021年12月末	2022年12月末
【流動資産】	2,558,623	4,565,355
現金及び預金	2,413,040	4,437,307
【固定資産】	87,608	249,982
資産の部合計	2,646,232	4,815,337
【流動負債】	386,293	682,536
【固定負債】	359,824	363,000
負債の部合計	746,117	1,045,536
【株主資本】	1,899,050	3,769,099
純資産の部合計	1,900,114	3,769,801
負債及び純資産合計	2,646,232	4,815,337

## 2022年12月期については

- 当社再生医療等製品の実用化に向けた**パイプライン開発が順調に進展**
- パートナー企業との連携強化により、当社再生医療等製品の**製造・販売に向けた体制構築が加速**
- **東京証券取引所グロース市場への上場**により資金調達

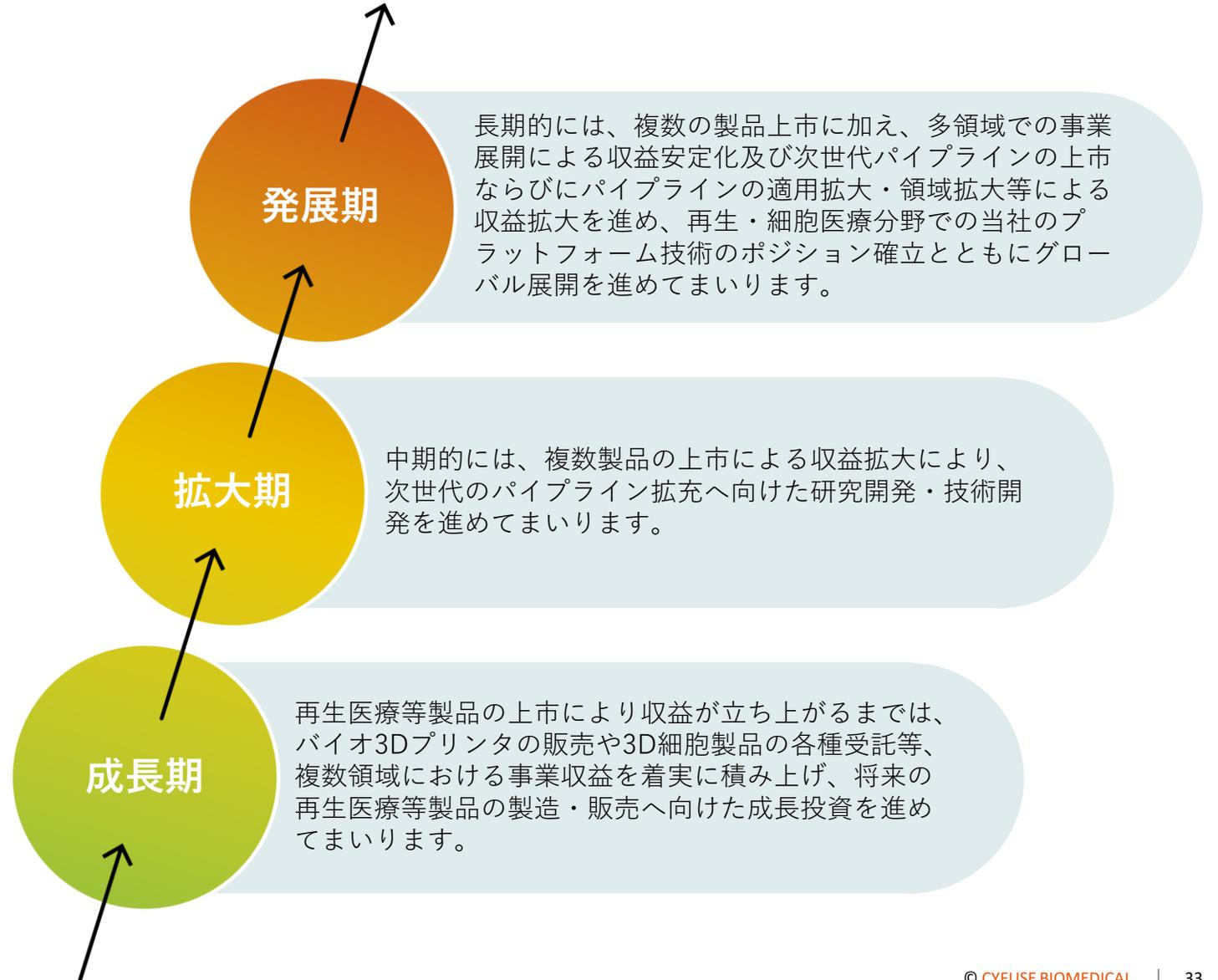
\*なお、来期以降につきましては、再生医療等製品パイプラインの臨床開発ならびに研究開発費等への先行投資を行う段階であり、安定した利益を計上するに至っておりません。このため、現時点において当社は、現預金残高水準(キャッシュポジション)を経営指標等としております。

# 業績予想・今後の事業計画

## 2023年12月期業績予想

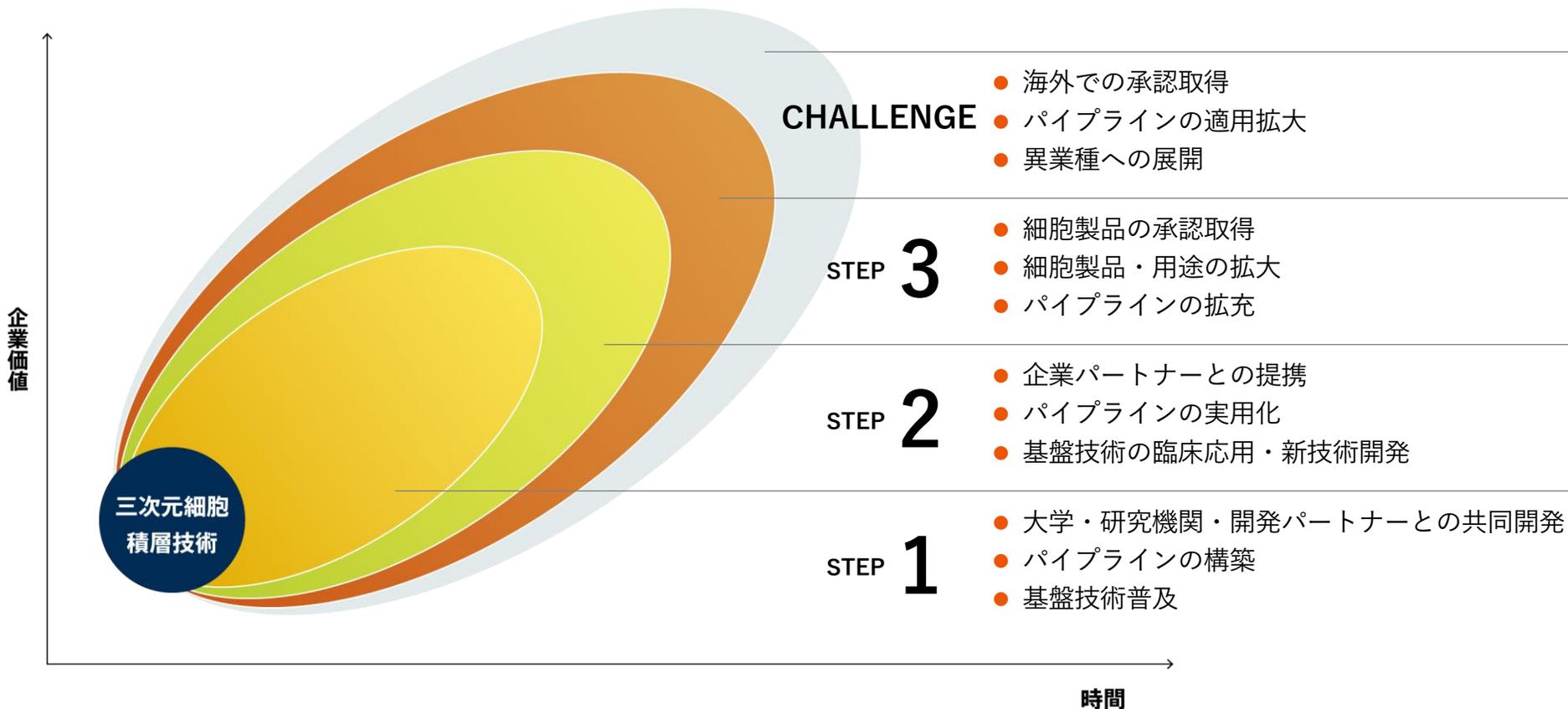
勘定科目	2023年12月期
売上高	604
営業利益	▲ 833
経常利益	▲ 680
当期純利益	▲ 682

(単位：百万円)



# 今後の事業展開

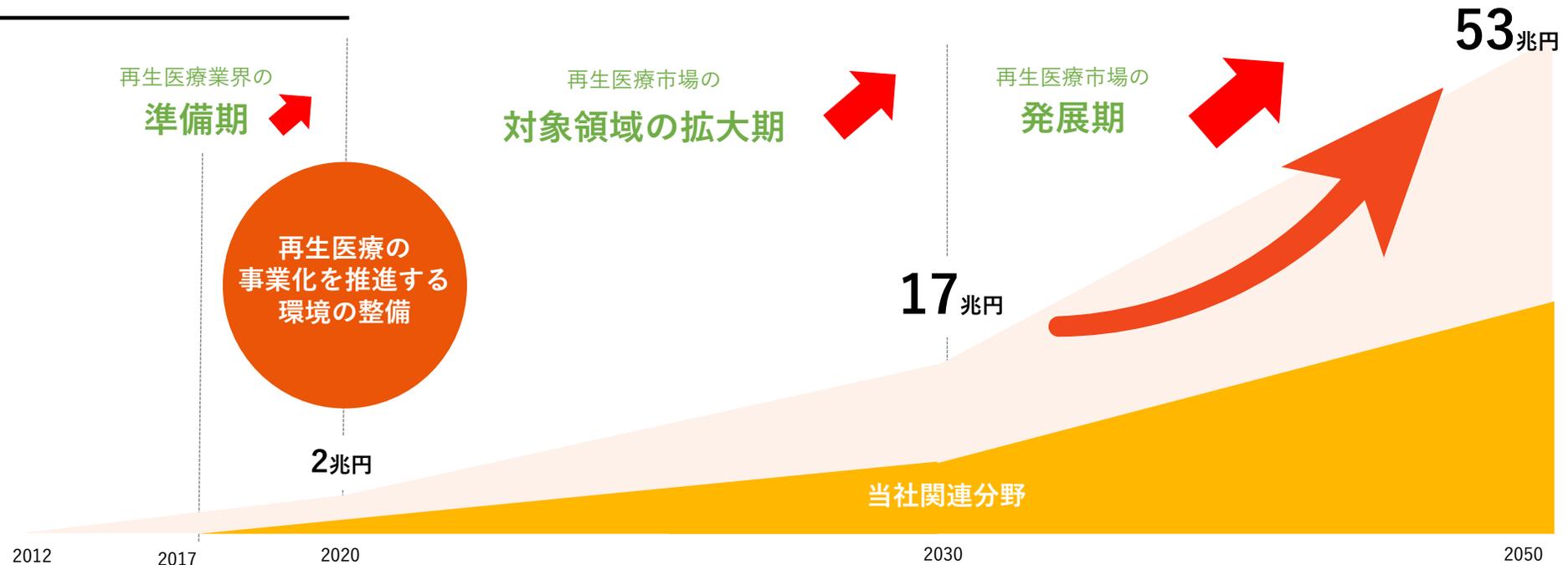
「革新的な三次元細胞積層技術の実用化を通じて医療の飛躍的な進歩に貢献する」という企業理念に基づき、再生医療ベンチャーとして飛躍的な成長を目指します。



# 再生医療市場の成長性

再生医療の市場規模は、2050年には世界市場53兆円、国内市場では2兆円規模となり、大きな経済効果が期待されている

## 世界の再生医療市場の成長\*



\* 経済省「再生医療の実用化・産業化に関する研究会の最終報告」を基に当社にて作製

サイフューズは再生医療領域のみならず、バイオ3Dプリンタ領域及び創薬支援領域の市場も有しており、領域ハイブリッド型での企業成長を目指しております。

# Our Mission

Create hope  
from cells.

細胞から希望をつくる。

「バイオ3Dプリンティングの技術を用いて、細胞のみから成る立体的な組織・臓器を患者さまへお届けする」  
「細胞(Cyto)が融合(Fusion)する」ことを社名とする、当社『サイフューズ(Cyfuse)』は、  
2010年の創業以来「革新的な三次元細胞積層技術の実用化を通じて医療の飛躍的な進歩に貢献する」  
という企業理念のもと、これまでにない新しい「再生医療等製品」「3D細胞製品」を  
新しい治療法の選択肢として患者さまや医療機関にお届けすることで、  
新しい医療・社会の創出を目指す再生医療ベンチャーです。

今後とも御支援の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。



細胞から希望をつくる。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社サイフューズ 経営管理部

所在地：〒108-6301 東京都港区三田3-5-27 三田ツインビル西館 1F

Email：[ir@cyfusebm.com](mailto:ir@cyfusebm.com)

# 本資料の取扱いに関するお願い

- 本資料は、株式会社サイフーズ（以下「当社」といいます。）投資家に対する情報提供のみを目的として当社が作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
- 投資のご検討にあたっては、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。
- 本資料は投資家の皆様へ当社をご理解いただくため、正確性・公平性を期し慎重に作成されたものでありますが、当社の有価証券への投資判断にあたって必要となるすべての情報が含まれているものではないこと、また、本資料に記載されている情報の真実性、正確性または完全性について当社として保証するものではないことにつきご了承ください。
- 本資料には、当社の現在の見通し、予想、計画等を含む将来に関する記述が含まれておりますが、新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、様々な要素によって変動する可能性があります。
- 本資料の使用または内容、情報等に関して生じたいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。
- 本資料の記載内容及び使用画像や写真・イラスト等について、当社の書面による事前の同意なしに、複製、複写、転載、転用等の二次利用を行うことを固く禁止します。